



## 新年のご挨拶

社会福祉法人 土佐希望の家

理事長 門田 正坦



ご利用者の皆さん、ご家族の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、土佐希望の家医療福祉センター、幡多希望の家医療福祉センターの運営に、ご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年は、野球の世界大会WBCで、日本は決勝でアメリカに勝って優勝、投打に大活躍の大谷選手は、大リーグでホームラン王とMVPを獲得しました。将棋では藤井聡太八冠が誕生、プロ野球では阪神が38年ぶりに日本一となり、「新語・流行語大賞」に「アレ（A、R、E）」が選ばれるなど、明るい話題がたくさんありました。

一方で、年末には、政治資金の裏金疑惑が政界を揺るがす事態となっています。検察による実態の解明が求められるところです。

さて、ここ3年あまり新型コロナウイルスへの対応に努めてきましたが、昨年5月8日に、結核等の「2類」感染症から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」感染症に移行し、外出自粛の要請などはなくなり、感染対策は個人の判断に委ねられるなど、コロナ対策は大きな節目を迎えたところです。

こうした中で、昨年8月から9月にかけて、土佐、幡多両施設でクラスターが発生、土佐では52名（利用者18名、職員34名）、幡多では54名（利用者28名、職員26名）の感染が確認されました。15日前後でクラスターは終息し、11月には7回目のワクチン接種も行い、その後、利用者の皆さんへの感染は確認されていません。

5類にはなりましたが、今後とも感染防止対策に努めてまいります。平成19年建築の1・2病棟の大規模修繕について、昨年9月に国庫補助の採択を受け、感染症の個室増設や空調の更新などを予定しています。5月には完成予定で、利用者の皆さんの環境の改善に努めてまいります。

また、軟弱地盤対策として懸案の幡多の移転改築については、移転先の用地確保に取り組みとともに、現施設の老朽度調査や新施設の概略設計などの準備を進めています。

利用者の皆さんへの支援の充実に向けて、土佐では「いいケアしようプロジェクト会」を毎月のように開催し、有識者からのアドバイス等もいただき、各病棟での支援の充実に繋がっています。また、幡多では、虐待防止委員会を毎月開催、虐待に関する「気づきボックス」も設置するなど、利用者支援の向上に努めています。

合併2年目となる昨年4月から、幡多の職員給与と手当を、令和7年度までに有利な土佐の給与と手当に統一することとしました。職員処遇が同じになれば、異動も可能となり、組織の活性化などの効果が見込まれます。

また、民間企業や公務員等の初任給見直し、令和6年度の医療・介護の報酬改定、人材の確保、などから、給与の見直しが必要と考えています。人口の減少、将来に亘る財政負担などを考慮し、持続可能な給与体系を検討してまいります。

併せて、職場のハラスメント対策にも留意するなど、働きやすい職場づくりに取り組み、更なる利用者支援の向上に繋がっていきたくと考えています。

南海トラフ地震対策が言われて久しくなり、危機感が薄れているとも言われています。

毎月の災害対策訓練は、両施設とも行っていますが、災害時の業務継続計画（BCP）の見直しが必要となっています。

水・食料・毛布、医薬材料などの備蓄は一定行っているものの、福祉避難所としての機能、要支援者や医療的ケア児への対応、近隣住民への対応など、計画の見直しが必要と考えています。職員の住所地と津波浸水地域を重ねて、参集可能な職員をもとに、災害時に可能な支援体制を想定し、BCPの見直しを行ってまいります。

まずは、土佐の見直しを行い、幡多は移転改築の状況に併せて、見直しに着手してまいります。

合併2年目となり、両施設合わせて193床、職員数373人（正職員291人、非常勤82人）の大企業として、法人及び施設運営では、スケールメリットを生かした、共同発注、共同購入なども行っています。

ご利用者、ご家族の皆さんに提供するサービスの質の向上、働きやすい職場づくり、地域貢献など、重症心身障害児者施設を運営する社会福祉法人として、その役割をしっかりと果たせるように、今年も組織一丸となって取り組んでまいりますので、関係の皆様のご支援・ご協力をよろしく願います。

最後に、本年が、皆様にとって良い年でありますようにご祈念申し上げます。

令和6年 元旦

# 成人式



## 2病棟 小松光希さん

2023年11月18日2病

棟で小松光希さんの成人式を行いました。お母様、お祖母様にご出席いただき、来賓で小田切常務理事、吉川センター長、武政部長、濱田副部長にも参列していただきました。ビシッと隣にお母さまとお祖母様がいて安心したのか、いつもと違う病棟の雰囲気にも動じることなく、いつも以上の笑顔を見せてくれて、挨拶やお祝いの演目、映像を楽しまれていました。生い立ちを紹介したスライドやお母様の挨拶では、出生された日のことやこれまでの成長、保護者の方のご苦労等を聞き、胸がジーンと熱くなりました。

最後になりましたが、小松光希さんご成人おめでとうございます。皆様のご協

力で、滞りなく式を行うことが出来ました。ありがとうございました。

2病棟生活支援課長

松下 功

## 3病棟 田部朗さん

中村豪仁さん

田部さん、中村さん、成人おめでとうございます。

成人式でのスライドショーでは、ご家族との楽しい思い出や愛が伝わり、見ていられるこちらが嬉しい気持ちになりました。おもちゃの太鼓をドンドン鳴らす田部さん、大好きな鈴を鳴らす中村さん、これからも音楽を通して二人仲良く過ごしていただけたらと思います。

田部さん、中村さんのご家族の方々改めておめでと

うございます。  
3病棟生活支援主任  
小松祐輔

# 修学旅行に行ってきました

10月に田村翔空さんが土佐希望の家分校中学部の修学旅行で、わんぱく高知に行ってきました。お父さんと一緒にいろいろな動物達を見てきました。天気もよく翔空さんの笑顔と陽気な太陽の光が印象的でした。翔空さんも嬉しい時間になったことと思います。高校生の修学旅行はまだまだ先になりますが、待ち遠しいですね。

11月は山本やしおさんと西森美音さんが高等部の修学旅行に行ってきました。山本やしおさんが先に出発。土佐和紙工芸館で紙すき体験し、帯屋町も散策してきました。夜は家族とホテルで一泊し、久しぶりに家族との時間を過ごせました。翌日は西森美音さんと合流し、モネの庭を散策、内原野陶芸館で陶芸体験もしてきました。天気が心配でしたが、天候にも恵まれいい経験と共に、楽しい時間を過ごすことができましたと思います。

コロナで修学旅行もなかなか行けず、今年からやっと行けるようになりました。それぞれが修学旅行で、素敵な時間を過ごすことができ、思い出を作ることができたと思います。



## ボランティアさん紹介

コロナでボランティアさんの受け入れもできていませんでしたが、昨年南国市の島村さんがボランティアに来てくれました。施設西側の生垣の剪定をしていただいて、とてもすっきりきれいになりました。ありがとうございます。



# 2023年 土佐希望の家祭

希望の家祭実行委員長

川村達男



今年の希望の家祭では、利用者さんがいつもと違う雰囲気には喜ばれたり、びっくりされたりと楽しまれており本当によかったと思います。たくさん職員や利用者さんの協力もあり、大きなトラブルもなく終了することができました。

実行委員長を引き受けた時には初めての経験でプレッシャーもありました。しかし、実行委員の皆さんが色々なアイデアを提案してくれ、支えてくれたおかげでなんとか最後までやり遂げることができました。今回うまくいった点については来年以降も継続し、うまくいかなかった点については反省し、来年の希望の家祭に活かしていきます。本当にありがとうございます。





## 守る会コンサート

令和5年10月29日（日）、全国重症心身障害児（者）を守る会高知支部主催で交流会を兼ねて「星名わかこ&サングラス」によるジャズコンサートが開催されました。

交流会では、皆さんの近況や想いが伝えられる時間もあり、新たなつながりもできたよう感じます。ジャズコンサートでは、サプライズで参加者の誕生日を祝うハッピーバースデーを合唱したり、可愛い合いの手やアンコールの声も客席から聞こえたり、会場が一体となり暖かい空間となりました。



# 勤続表彰されました



1病棟  
生活支援員

武久 京子

令和5年11月14日（火） 高知県立ふくし交流プラザにて、第74回高知県社会福祉大会（表彰式典）があり、1病棟の武久京子生活支援員が勤続表彰されました。ご本人にインタビューした内容をお伝えします。

○勤続43年ということですが、長く続けられた理由は何ですか？

仕事を楽ししかったということだと思います。特に昔はアットホームな雰囲気で、利用者さんと一緒に海や山にピクニックに行ったり、粘土焼き、紙すき、クッキング、マラソン大会、演劇、旅行など。園外療育では保護者の方とも一緒によく出掛けていました。粘土焼きでは夜通し火の番をしたり、お正月には自宅に帰らない

利用者さんと職員の家に泊まったり、今では考えられないことですね。大晦日には夜更かしして、利用者さんと一緒にこたつとみかんで年越ししていました。

長く続けられたのは、自分の体が丈夫で健康だったこともあり、産前・産後休暇や育児休暇が取れたことも大きかったです。

いい先輩方にも恵まれました。福祉に情熱的な方が多くていろいろなことを教わりました。学校の先生や訓練の職員など多職種との交流が多くて仲良く、当時は施設内でぎやかに飲み会をするなど、いい時代を過ごせたと思っています。

○退職まで残り1年余りとなりましたが、想いを聞かせてください。

そうですね、入職して初めての病棟がこすもす病棟（1病棟）でしたが、終わりのこすもす病棟になりそうです。幼い頃から知っている利用者さんも多くて、思い出深い病棟で嬉しく感じています。時代の流れでいろいろなことに制限ができたり、仕事の内容も昔とは変わってきたように感じますが、これからも利用者さん、保護者の皆さん、職員みんなが健康で楽しく過ごせたらと思っています。

## 3病棟プレイバック



今回のプレイバックは、当時世界チャンピオンだった貝志堅用高さんが、土佐希望の家に訪問された時の一枚です。3病棟の鍋島哲夫さんと、山下太さん、3病棟の松井文子さんが一緒に写っています。

もう一枚は、外出の様子です。今は、行われていませんが、外出で釣りを楽しまれています。釣りを楽しまれているのは、3病棟の濱口延雄さんと鍋島哲夫さんです。



# 面会の様子



# 1 病棟



待ちに待った外出

何年我慢したことでしょうか・・・

コロナによる規制も緩和されだして、外出に行くことができるようになりました。外出の楽しみといえば、美味しいものを食べたり飲んだりすることですね！利用者さんひとりひとりの好きなものをお店で買って公園でのんびりしたり、見ごろのコスモスを楽しんだりして心地よいひと時を過ごしました。経管栄養の利用者さんは、施設にもどってから栄養時に味わいました。これからも、いろいろな所にたくさん出かけて思い出をいっぱい作りましょうね。

(1 病棟：生活支援員 飯田暢子委員)



# 2 病棟



7月26日に多久和宏美さんの還暦祝いをしました。多久和さんの歴史を嶋崎副部長、濱田副部長が振り返りながら話をしてくれました。映像の中にはご家族様と過ごした時間や、たくさんの多久和さんの笑顔が映っており、頭の中でその時の情景が浮かんできました。じーんと込み上げてくる思いもあり、心温まるお祝い会となりました。

病棟では紙芝居や、アロマ、散歩、個人での取り組みも日常において活動していますが、制限されていた外出もできるようになりました。秋の風を感じ利用者さんも気分転換できたことと思います。これから寒い季節、体調崩さず元気に過ごしていきましょう。

(2 病棟：看護師 下司亜寿美委員・看護助手 岩本法子委員)



# 3病棟



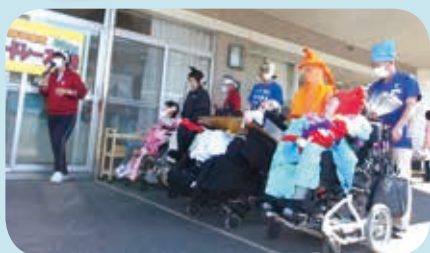
10月末に3病棟の畑で育てたさつま芋を収穫しました。お芋が無事に育っているのが、芋ほりの様子をみんなでワクワクしながら見守りました。大きく育ったさつま芋を見つけるとみんな大喜び、収穫したお芋と記念写真を撮りました。

11月に焼き芋大会を開催しましたが、あいにく雨模様の為、ホールでスイートポテトパーティとなりました。みんなに濡れたペーパータオルとラップを巻いてもらいました。職員が熱々蒸したての芋を触って「熱い！熱い！」と言うと大笑い。お芋を試食し、「おいしい！」「甘い」と大喜び。そのあとはスイートポテトを作り、昼食と一緒にたくさん頂きました。来年も楽しみです。

(3病棟：生活支援員 高橋由吏委員)



# 通所



今年も通所ロードレース大会 2023 を開催しました！皆さん直前まで練習したり気合十分。特に決めてなかったのに、「〇〇さんどんな衣装着る？」と仮装に張り切る人もおり、こちらも気合十分。天候も心配しましたが、晴れてよかったです。走行中は歌を歌いながら行く人や、「1、2、3…」とカウントしながら走る人もいて様々でした。お祭りのような雰囲気を利用者さんにもここに笑顔です。秋の景色も楽しみながら、とっても素敵な大会になりました。

後日表彰式も行われました。今年はぴったりの人(!)が1位に輝き、その後も僅差で続く、とてもレベルの高い大会になりました。また、来年もみんなで楽しめますように！♪

(通所：生活支援員 野口朱音委員)



まだまだ寒い日が続いていますね。

いつもいろいろなお野菜を頂く利用者さんのご家族から、寒い冬の料理に欠かせない生姜を沢山頂きました。

生産量全国1位の生姜大国高知県。いろいろな料理に取り入れられる事も多いと思いますが、生姜には、「血行促進」と「冷え解消」の効果が期待でき、むくみ解消・殺菌作用・食中毒の予防・消化促進・腸内環境の改善・糖尿病のリスクを緩和・口臭の予防や解消など、様々な効能が期待できるのも特徴です。今回頂いた生姜も、つくねの照焼や、魚と野菜のヘルシー蒸し・鯖の味噌煮・棒棒鶏など、メイン食材として目立つ使われ方はあまりありませんが、少量でも存在感のある脇役として、いろいろな給食料理に活躍させて頂きました。

## ささみと生姜のスープ煮

ささみ 10 g 白菜 20 g ・葱 5g 生姜 1g ・水 120 g  
鶏がらスープの素 1g うすくち 1g ・塩 0.2g

希望の家のスープメニューです。ささみであっさりとしていて、飲んだ後はポカポカになります。



## わたしの仕事

3病棟 田邊紗耶花 生活支援員



私が土佐希望の家に就職し、早いもので十二年の月日が経ちました。初めに配属となった二病棟では、非言語的コミュニケーションの難しさや、ご利用者の真のニーズとは何か？と悩む事もありましたが、だからこそ日々の中に発見するご利用者の小さな変化や反応に、喜びややりがいを感じ、私だったらどう感じるか？という「想像力」を育ててくれた病棟でした。

その後の一病棟では一転して、思うままに行動しているご利用者に最初は圧倒されましたが、関係性を構築していく中で、その行動には意味があり、その時の心身状況の現れでもあるという事、またありのままに全身で喜怒哀楽を表出するその姿は純真そのものであり、自分自身の「母性」

を育ててくれた病棟でした。そして現在働いている三病棟。当たり前に「田邊さん」と名前を呼ばれ、毎日言葉が飛び交い、こうしてほしいという利用者さんの意思表示が一番明確であり、意思決定のある病棟です。それがゆえに、意思の尊重か、安全の確保かの闘ぎあいが生まれますが、その都度話し合いを重ねています。ここでは「待つ」ということを学んでいます。

この十二年は私自身に学びを与えてくれた時間でした。そして私が十二年間変わらず大切にしていることは「この人にやったら介助してもらってもいい」と思ってもらえる存在であること。今後も謙虚さを大切に、日々頑張つてまいります。

# アトリエ

## 「ハグロトンボ」さん

土佐希望の家の周囲は緑豊かな環境の中にあります。病棟の南側は用水路を挟んで、うっそうとした雑木林がひろがる山地となっています。

7月、8月、9月。この辺りには、黒い羽根をヒラヒラと優雅にはためかせて跳ぶ「ハグロトンボ」が沢山みられます。

病棟と通所を繋ぐ渡り廊下。両側はガラス張り。此の季節、廊下を通っていると、ハグロトンボが少し薄暗い廊下のすぐ外付近まで飛んでくるのが見えます。

通所に来られる在宅の障害児・者の利用者の方が、廊下に繋がる通所玄関の自動扉から、職員や家族に付き添われて入ってくる時、一緒に「ハグロトンボさん」も入ってこられることがあります。ドアには、「ハグロトンボさん、入室御断り」の表示もありません。

先日は、渡り廊下に入ってきた「ハグロトンボさん」は、元の自動扉付近にいましたが、ドアは開かず。ひらひら飛んで、「出口はどこだろう」と、一生懸命、探しておられました。丁度、通りかかった自分が、窓際でそっと羽根を捕まえ、窓から外へ放してあげました。「ハグロトンボさん」は、ひらひらと、林の中に帰ってゆきました。

また別の日、同じ渡り廊下で、出口を探している「ハグロトンボさん」を発見。確保して、外に逃がしてあげようとしたのですが、相手は飛行の名人。高い天窓の方に昇り今回は、捕まえることができませんでした。

数日して、渡り廊下の窓の傍で、大きく羽根を広げたままの「ハグロトンボさん」の亡骸を見つけました。

どれだけ、故郷の森に帰りたかったことでしょう。

自分は、外に出て、亡骸を林の中に戻してきました。

秋のやわらかな日差しが木立からみえました。



長 博雪



# 家族の窓



1病棟 掛水晃太様  
保護者 掛水美由喜様

若草養護学校本校を卒業と同時に入所して6年目、1病棟でお世話になっている24歳、掛水晃太です。

4・132gの元気で大きな男の子として誕生しましたが、生後7ヶ月の時、細菌性髄膜炎を患い、それまでの生活が一変してしまいました。

それでも『どんなことがあっても晃太は晃太だから』という思いを胸に家族と共に歩んできました。

1歳6ヶ月より難治性の発作が始まり、3歳の時に岡山大学病院に検査入院をして、それから入所するまでの15年間、2ヶ月に一度岡山へ通院をするという生活を送ってきました。

治療の甲斐あって発作は落ち着いてきましたが、高校卒業を控えた頃、家庭での生活が困難な状況に陥り関係各所、お世話になっていた皆様と相談のうえ入所する運びとなりました。

入所してから週末は帰宅して家族と過ごし、親子共々安定した生活を送っております。

しかし、2020年度よりコロナ禍の状況になり、会いたい時に会えないという予想もしていなかった辛い時期を過ごす事になりました。

コロナ禍で直接会えないという実情と会いたい、会って触れ合いたいという気持ちと交錯する日々でしたが、それでも晃太は今日も希望の家で元気に頑張っており暮らしている

と心で祈りながら一日一日過ごしていました。

リモート面会、窓越し面会を経て約1年9ヶ月ぶりに直接面会ができた時の晃太は何も変わらず昨日も会ったかのように満面の笑みを浮かべ嬉しそうな表情で迎えてくれました。その時の感動は今でも忘れる事ができません。

同時に、職員さん自身も大変なコロナ禍の最中、日々変わらず懸命な支援をして下さり、日常を保って下さった事に感謝の気持ちで一杯になりました。

又、面会時、職員さん達から晃太の様子を伝えていただき直接コミュニケーションをとれる事がとても安心につながっています。コロナ禍を経験して職員さん方々と対話することの大切さを改めて感じており、これまで以上に絆を深めていけたらと思っています。

現在、週2回の面会の時間、おやつを食べたり好きな車や動物の本と一緒に見たり散歩をしたりと楽しく貴重な時間を過ごせています。外出もできるようになれば大好きな神社お寺巡りにも行きたいと思っています。

『今日』という一日を大切に積み重ねながら、希望の家での生活がより豊かなものになることを願っております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。そして心より感謝申し上げます。



ご寄附 12月末まで

(有)大前田商店 様

四国明治株式会社高知支店 様

前田 久 様

高芝 幾美 様

福原 公二 様

高野プロパン(株) 様

大篠地区社会福祉協議会 様

長 博雪 様 宇野久二天 様

宇野 薫 様 南国教会 様

職員一同お礼申し上げます。

## 編集後記

日本には、外国にはない四季があります。しかし、最近では、異常気象のせいで春も秋も短くなり、猛暑が当たり前になってきました。秋も一瞬で過ぎ去っていきます。日本の素晴らしき四季はいずれなくなるかもしれませんね。

我が家の庭には、ミモザや十月桜やモミジなどが植わっています。花や木々を愛でると心がほっとします。四季を身近に感じる日々がこれからも続きますように。